

生徒（生活）指導（教育相談）研究部会

I 研究テーマ

生徒指導部会 統一テーマ「望ましい生徒指導のあり方」

教育相談部会 小テーマ 「生徒指導の今日的課題の解明に向けて」

II 研究テーマ設定の理由

昨年度（2013年度）の小学校、中学校及び中等教育学校（前期課程）の不登校児童生徒は、全国では13万9000人と年々増加傾向にある（文科省 HP より）。山梨県を見てみると2007年度の不登校率全国ワーストワンから、全県を上げた取り組みが功を奏し、おおむね減少を続けているとは言っても割合が高い。

全国でも同様のケースが多いと考えるが、山梨県内では不登校の長期化や引きこもりや虐待など深刻なケースも見られている。また不登校生徒が卒業後にニートと呼ばれる引きこもりになることもあり、これもまた大きな社会問題となっている。不登校生徒が学校に在籍している間に、いかに社会とのつながるきっかけを数多く作っておくかが、学校現場に突きつけられている課題と考えている。

また、教室への登校ができず、保健室などへ登校している児童生徒の問題や軽度発達障害児やその子を取り巻く環境へ対応の問題、被虐待児童生徒がおこす問題行動など、子どもたちの「心」をめぐる問題は山積しており、学校現場の多忙さも併せて指導は困難を増す一方である。

本部会ではこのような現状を踏まえ、特に不登校や発達障害など特に支援が必要な児童生徒の事例研究を通して、学校はどのような対応をすべきかをお互いに学び合うとともに、今年度は、教育センターを利用した講義や部会の中の教職経験が長い先生を講師とした学習会を設定することにより、日々の教育活動に生かしていこうと考えた。

III 研究の経過と内容

4月10日：第1回部会総会・研究会

- ・部会員の確認，組織の決定，研究の方向性についての話し合い

5月15日：春季全体集会・第2回部会研究会

- ・今年度の部会研究テーマ，活動方針，活動計画等の決定
- ・「事例研究」「学習会」について
- ・春季教研還流報告

6月17日：第3回部会研究会

- ・事例研究会の分担 等

- 8月7日：第4回部会研究会・夏季全体集会
- ・学習会 講師 県教育センター職員
 - 『教育相談を生かした人間づくり』
 - ・県教研レポート提出者の決定

- 8月20日：第5回部会研究会（レポート発表と協議）
- ・事例研究会①
 - 事例1（西中） 1レポート
 - 事例2（城南中） 1レポート
 - 事例3（上条中） 1レポート

- 9月4日：第6回部会研究会
- ・県教研に向けて
 - 事例4（千塚小） 1レポート

- 10月2日：第7回部会研究会
- ・事例研究会②
 - 事例5（西中） 1レポート
 - 事例6（城南中） 1レポート
 - 事例7（貢川小） 1レポート
 - ・県教研レポート提出者決定

- 11月4日：第8回部会研究会
- ・県教研参加者還流報告
 - ・教研推進委員からの報告
 - ・学習会① 講師 北中教諭

- 1月27日：第9回部会研究会
- ・今年度のまとめと来年度の方向性の討議
 - ・会計報告
 - ・来年度の世話人について

IV 研究の反省と課題

1 今年度の部会を振り返って

(1) 成果

今年度も事例研究だけでなく、学習会も行ったので、幅広い内容を学ぶことができた。

事例研究では、部会員の過去の経験や研修をもとに具体例を出し、いろいろな切り口から事例を検討することができた。また、その対応方法等が話し合えたので日々の実践の参考になってお互いに学ぶことができた。

また、夏期研修会では、県教育センターの講師から、教育相談を生かした人間づくりについて、エクササイズやソーシャルスキルトレーニングなど体験を取り入れながらの講義だったので実践に役立つ内容であった。

後半の学習会では、教職経験が長い先生に日々に生きる教育技術を伝授してもらうことができた。今、学校現場が超多忙であり、先輩教師から教えてもらう時間がもてない現状であるため、大変貴重な時間を過ごすことができたと感じている。

(2) 課題

課題としては、部員が固定化していること、および年齢により学級担任から外れる教師が増えている、担任として悩んでいる事例があまり提供できない。また提供できる事例を文書提案しているが、個人情報に関係もあり、研究会終了後には、回収廃棄する方法をとっている。今後は、研究で提案された事例を持ち帰れるようにすることにより、研究の成果を事例提出校のみならず、他校でも学年研究や校内研究などで積極的に還元できるようになっていけばと考えている。

また、事例が少ないときには、無理をして何年も前の事例を出すのではなく、今の学校の組織的対応について発表してもらい、学びあうことも考えていきたい。

2 来年度に向けて

甲教協で教育相談の事例が検討できるのは本部会だけなので、来年も基本的に今年度の研究を継続していきたいという意見が多数であった。

部会で、各校で知りたいことや困っていることを出し合い、それについて文献研究を行い、レポートを提出するなどの内容も加えていったらどうかという意見も出されたので検討していきたい。

また、予算の関係もあるので難しさもあるが、外部機関の見学や外部講師をさらに積極的に活用するなど、最新の教育相談法などを学んでいきたいと考えている。